

Por um futuro melhor



どの子の未来も明るくなりますように！

フラジル通信 No.22 2018.12.3

学校教育課 鳥山徳子

「Você se lembra o meu nome」(私の名前を覚えていますか?)「noriko!」

学校訪問2巡目の活動(11/5~29) その①

名前を覚えてくれていてうれしかったです♪

① 「小学校の一日」ビデオ視聴

出発前に飯村小学校にお邪魔し、学校の様子を撮影させていただきました。子どもたちは、運動場の広さや校舎の大きさに驚き、プールがあることをとても羨ましがっていました。トイレ掃除の場面では、どの学校でも悲鳴ともとれるような声が聞こえてきました。先生方は、日本の子どもたちが自分たちで掃除をしていることを強調し、「あなたたちは掃除もしないし、ごみは落とすし・・・」というお説教を始めるので、ビデオを見せることを途中から躊躇するようになりました。



② 折り紙

日本から折り紙を持って行って、一緒に折り紙を楽しみました。折り紙の習慣はないので、すごく簡単なものを選びましたが、想像以上に時間がかかりました。カタカナで名前を書いてあげると、「家族の名前も書いて!」という子がたくさんいました。家族との結びつきの強さを感じました。



③ 習字

日本から筆と墨汁を持っていき、毎日ヨーグルトを食べて空き容器を作り、そこに墨汁を入れました。A4用紙に、子どもたちの書きたい言葉を漢字で書きました。「みんなが書きたい言葉は何?」と聞くと、一番多いのは、「父」「母」でした。続いて、「家族」「友達」などでした。中には、「平和」「愛」などもありました。折り紙同様、名前を日本語(カタカナ)で書いてあげると、みんな喜んでくれました。

④ リコーダー演奏

音楽の授業がないと聞いていたのでリコーダーを日本から持っていきました。ところが、全日制の学校の中には音楽の先生が2週間に1回巡回してきて音楽活動に取り組んでいました。リコーダーや木琴・鉄琴だけでなく、ドラムセットを先生が車で持参してきて演奏を楽しんでいる学校もありました。楽譜は、まだ読めないのが、階名がローマ字で書いてあるだけでした。ブラジルの授業は活動が少なく、ほとんど座学ばかりなので、子どもたちは音楽の授業が大好きで、生き生きとした表情で取り組んでいました。一緒にリコーダー演奏できてうれしかったです。



⑤ 簡単な日本語&ポルトガル語ビンゴ

子どもたちは、私が黒板に日本語を書くとても喜んでくれたので、2巡目の訪問では、プリントを作成し、簡単な日本語を書く活動をしました。初めて平仮名を書くのにとっても上手な子もいて、驚きました。「ポルトガル語ビンゴ」は、私がブラジルで覚えたポルトガル語を、子どもたちが予想して9つのマスに書くというものです。これも4、5年生で行いました。学校によって差が大きく、ある学校では5分で全員が書けましたが、ある学校では15分かかって34人中7人が9つのマスを埋めることができませんでした。



これは、私の予想を超えていました。学校には来ているものの、4年生でもアルファベットが身につけていない子どももいるということがわかりました。

Por um futuro melhor



どの子の未来も明るくなりますように！

フラジル通信 No.23

2018.12.3

学校教育課 鳥山徳子

「Muito bem!」「Muito bom!」「Parabéns!」(この3つで子どもをほめ続けました)

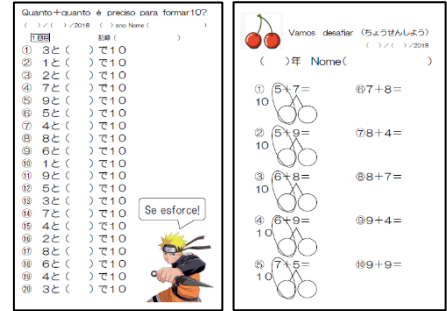
学校訪問2巡目の活動(11/5~29) その②

⑥ 算数の授業(繰り上がりのある1けたの足し算・九九)

「繰り上がりのある1けたの足し算」が手を使わなくてもできるように、日本のサクランボ計算の仕方を紹介しました。ぜひやってみたいという学校が2校あったので、挑戦してみました。学年は、相談した結果、2校とも4年生で行いました。

サクランボ計算は「10をつくる」ことが大前提なので、いくつといくつで10になるかを繰り返し練習してから、繰り上がりのある1けたの足し算に取り組みました。こつをつかんだ子はすらすらと計算していましたが、今までとやり方が違うので、苦戦している子も多かったです。

九九は、4年生の授業で少しお手伝いをしました。6・7・8・9の段の九九の学習です。日本のように九九を暗唱しないので、6の段なら、 $6 \times 0 = 0$ 、 $6 \times 1 = 6$ 、 6×2 の答えは、 6×1 の答えに6を足すというやり方です。 6×4 になると、 6×3 の答えである18に6を足す計算を指でやるので、半分以上の子が答えを出すことができません。「この子は知的に遅れているのでできません」と先生が言っていた子どもに、私の考えたやり方で説明すると、6の段、7の段と自分で答えを出すことができました。そのやり方で、多くの子が答えを出すことができましたが、その方法について先生に説明する時間も、全員の前で説明する時間もなく、とても残念でした。別の学校で筆算のかけ算の授業を参観した際には、教室に掲示してある九九の表を見ながらでないとい計算できない子が多くいて、驚きました。



⑦ 授業参観(算数・国語・理科)

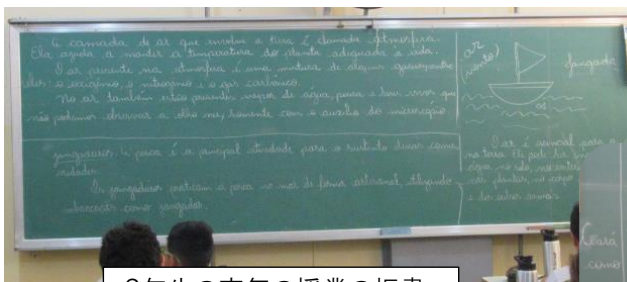
授業の最初と最後のあいさつはありません。ブザーが鳴ってもすぐに教室に戻って来ない子どももいます。先生方も休憩しているので、ブザーと同時に授業が始まることはありません。どの授業も、最初に、日付を書きます。中には、学校名・先生の名前、自分の名前を書かせている学校もありました。それだけ書かせるのに10分はかかっています。やっと授業が始まったときに時計を見ると20分は過ぎているという現実がありました。授業時間の確保に対する認識はまだまだ低いと感じました。

算数では、教具を使い、操作活動を取り入れている授業もありました。ただ、それを説明するのにOHCもなく、黒板にも磁石などで付けられないので、先生の机の上で操作しているのですが、後ろの子は何をやっているのかが見えません。市長さんや教育局長さんに、日本は磁石黒板になっていて、拡大した用紙や教具を簡単に黒板に掲示することができるかと伝えると、それはとてもよいと言ってくださいましたが、実現は難しいでしょう。



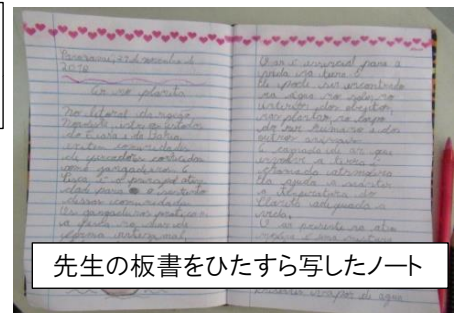
理科は、1時間だけ参観できました。教科書の内容を先生が黒板に書き、それを1時間かけて子どもたちがノートに写すという授業でした。書くのが遅い子は、「どうしてまだ書けないの!!」と叱られていました。今年度、教育局の方々が大学の先生から理科の授業について研修を受け、来年度から少しずつ改善されていくそうです。あまり具体的には聞けませんでした。体験活動を重視した授業に変わっていくという話を聞きました。

授業については、まだまだ改善すべき点が多くありました。まずは、聞く態度が育ってきているパラナヴァイの子どもたちに、楽しめる授業の工夫が必要であることを教育局の方々に伝えてきました。



3年生の空気の授業の板書

何の説明もせずに教科書の内容を黒板にひたすら書き続けている先生



先生の板書をひたすら写したノート